

第12期 松戸市緑推進委員会  
第5回 委員会

1. 日時 令和5年5月25日(木) 10:00~12:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・木下 剛・平岡 孝(オンライン)・小谷幸司・高橋盛男・藤田博美・榎谷有三・  
並木能子・河野芳久・増木宏行

○松戸市

小倉慎一 (街づくり部部長)  
保木正継 (街づくり部審議監)  
布施 優 (公園緑地課課長)  
飯沼 修 (21世紀の森と広場管理事務所所長)  
若林 稔 (21世紀の森と広場管理事務所所長補佐)  
吉岡千春 (公園緑地課主事)

○兼事務局(みどりと花の課)

三末容央(課長)・木村高德(補佐)・木原 茂(補佐)・中山 茜(主査)  
・木城 拓也(主任)・岩田 昇(主査)

○松戸みどりと花の基金

青柳洋一 理事長  
田辺久人 事務局長

○傍聴 1名

事務局より本委員会の成立について、委員人15名中10名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

2 議事

- 1) 議事要録の確認
- 2) 第12期緑推進委員会テーマについて
- 3) みどりのサロン部会からの報告
- 4) 緑と花のフェスティバル2023について報告
- 5) その他

3連絡事項

4閉会

### 議事1) 議事要録の確認について

会長

事前に送付した議事要録について異議はあるか。

無ければこれを以て議事要録とする。

## 2) 第12期緑推進委員会テーマについて

### 会長

議事2、第12期緑推進委員会テーマについて、事務局から説明をお願いします。

### 事務局

まず資料のお手元の資料の確認をさせていただきます。

資料1として、前回の緑推進委員会テーマの議論について

資料2として、松戸市ソーシャルメディアポリシー

資料3として、サロン部会からの報告

資料4として、緑と花のフェスティバル2023の参加報告

資料5として、第12期緑推進委員会会員名簿

それと資料と別に、ゆいの花フェスタのチラシがあるかと思います。以上が本日の配付資料でございます。

議事に入る前に、前回の委員会でシティプロモーション担当室の方に、こちらに来ていただいて、お話をいただきたいという議題が出たと思います。そのことについて私の方でシティプロモーション担当室の方に、お話を伺いに行ってきました。

現在、シティプロモーション担当室の方では晴耕雨読という冊子の発行について尽力されていて、動画等については担当室もプロモーションに苦慮していることから、こちらでのお話しはむずかしいとお伺いしましたので、この場でご報告させていただきます。

その際のお話しですが、晴耕雨読というのは、東京の方で出しているフリーペーパーです。そちらの方に松戸市の紹介ページを広告料で紹介をさせていただいてる冊子となりますが、その記事の出来が大変いいので、松戸市に関する記事を抜粋して、改めて冊子としてまとめたものを配布しています。こちらが大変好評だという話をいただいております。

シティプロモーションについて、どの辺で協力できるかというお話もしてきましたが、雑誌とか冊子を作るにあたって、ネタが欲しいというお話もあるので、こちらの方から積極的にみどりの活動などを提供させていただきたいということをお願いしたところ、いいお返事がいただけましたので、今後はそういった活動とかについて積極的に資料を持って直接取り組みの説明とかをさせていただこうと思います。早速ですがオープンフォレストの方もその場でご紹介させていただきました。そうしましたら先日、晴耕雨読のカメラマンの方が来て、野うさぎの森と囲いやまの森で、森の状況や風景を撮影してくれました。今後それが、どのような形でご紹介されるのか分からないのですが、関係者への取材や秋の風景も撮影したいというお話しがシティプロモーションの担当者の方から連絡ありましたので、こちらについてもお願いしますとお話させていただいております。

以上、シティプロモーション担当室の報告とさせていただきます。

それでは議事2についてご説明いたします。

まず資料1をご覧ください。

前回の委員会で何を行うかについてお話がありましたので、それをまとめたものでございます。前回の委員会では、具体的に何を行っていくかというかという議論になりました。資料1の通り、具体的検討事項等が決まっております。

資料1の裏面にご意見をまとめてありますので、ご確認をお願いいたします。

次に資料2をご覧ください。

こちらには、資料1の前回の委員会の議論をもとに、今後のみどりのシティプロモーションを行うために必要だと思われるものをご用意させていただきました。

資料2の1ページ目は、松戸市ソーシャルメディアポリシーです。

こちらはインターネットで松戸市のホームページからダウンロードすることができます。

松戸市のソーシャルメディアに対する基本理念などが定められています。

前回の委員会でSNSの運用について議論があった際、ポリシーについても言及がございましたので、参考資料としてをご用意させていただきました。

2ページ目は松戸市のソーシャルメディアポリシーと同様に松戸市のホームページからダウンロードできるソーシャルメディアを運用するためのガイドラインとなっております。こちらは参考までにご用意させていただいております。

次に5ページ目は、松戸市の電子モニターについての資料でございます。

本館正面玄関や、市民課待合席の前のモニター、新館地下1階のエレベーター前、各支所のモニターに動画を流すことができます。

しかしながら、企業の有料CMもありますので、市で流せる動画が15秒に制限されていますので、市の電子モニターを利用する場合は動画を15秒とする必要があります。

次に6ページ目です。前回委員会で、フェイスブックやインスタグラムなどの利用についてお話がありましたので、その利用率について調べてみました。データは総務省の令和3年度情報通信メディアの利用時間と情報向上に関する調査報告書から引用しております。

まず種類別で、全世代のSNSの利用率でございますが、インスタグラムの利用率が48.5%、ツイッターで46.2%、フェイスブックで32.6%でございます。インスタグラムは平成27年の調査以来、一貫して増加しております。

令和3年度はツイッターの場合、世代別では20代の利用率が78.6%と非常に高くなっております。ちなみにインスタグラムでは、10代の利用率は72.3%、30代は57.1%、40代は50.3%、50代は38.7%、60代が13.4%でございます。

次に、フェイスブックの利用率でございますが、全世代では32.6%となっており、10代の利用率になりますと13.5%となります。ちなみに、20代は35.3%、30代は45.7%、40代が41.4%、50代は31%、60代が19.9%と、30代の利用率が比較的高くなっております。

次に7ページ目、SNSの一日の利用時間についてとなります。

全世代では平均、平日は40分、休日は45分となっております。

ただし、20代につきましては利用時間が非常に高くなっており、平日で84分、休日は114分と全世代中、もっとも長く平均の倍以上となっております。

また、ブログやウェブサイト、いわゆるホームページなどについては、全世代で平日休日ともに26分となっており、30代の利用時間が最も長く約36分、休日は39分となっております。

動画系SNSでも、全世代の利用率が87.9%と高いものになっております。50代60代の利用率は6

0%を超えており、松戸市にも公式ユーチューブチャンネルがございますので、現在の状況を説明させていただきたいと思います。

こちらが松戸市公式のユーチューブチャンネルとなっております。

現在の登録者が約3000名で、約370本の動画が登録されております。

1万回を超える再生回数の動画が13本、10万回を超える動画が3本。

1万回から1000回のものが117本、1000回未満のものが240本となっており、全体的に再生回数は、厳しいように見えます。

シティプロモーション担当室の方からも、動画の利用については色々と難しいという話もございました。

8ページ目です。松戸市のみどりと花の課のホームページへのアクセス数を調べてみました。

令和4年度の1年間のアクセス数を表しております。

左側がみどりと花の課の各ホームページ名を書いています。真ん中の数字が1年間のアクセス数でございまして、右が1日の平均アクセス数でございます。

表の通り、市民農園のアクセス数が1日12.4回と一番高く、市民の関心が高いことが分かります。最後に動画を考える際の参考として、シティプロモーション担当室のホームページに、15秒で作成されたPR動画がありましたので紹介させていただきます。

こちらは、平成29年度に実施した、「15秒で松戸をPR！松戸CM大賞」の大賞作品で、「MATSUO」というタイトルの動画でございます。参考になると思いますので、こちらを紹介させていただきます。15秒ですが、川をメインに自然をいろいろ取り込んでいる動画になっています。市のデジタルサイネージではこの長さとなります。

こちらは自然とマッチしてすごく綺麗な動画ですけども、大賞の後にあまり活用されていなかったようです。

先ほど出てきました晴耕雨読ですが、東京都のフリーペーパーの方に記載されているものを抜き出して、晴耕雨読としてシティプロモーション担当室で配布しています。

年1回発行で、現在2年先まで、大体の記事の内容が決まっているというお話を伺っております。

こちらは農家の方の紹介とか、戸定邸の紹介とか、非常に松戸のみどりと縁があるところを紹介していますので、こちらの方にも今後呼びかけをしたいと思います。

#### 会長

資料の説明について質問はありますか。

#### 委員

東京のフリーペーパーで、松戸市の紹介をすることになった経緯は分かりませんか。

#### 事務局

広報広聴課の仕事を落札した業者が、晴耕雨読に関係する東京や山梨の仕事をしていた縁から松戸市の記事掲載をというような流れと伺っています。

#### 会長

松戸市に特化した冊子はどれくらいの頻度で発行しているのか。

**事務局**

年1回の発行で部数は1万部となっています。

**委員**

SNSの発信について、松戸市が運営しているユーチューブやツイッターのアカウントは、こういった場所で見られるようになっているのでしょうか。

ホームページには、アカウントがここにあると取れますよというのがあるかと思いますが、イベント等の催しがあった時にQRコードみたいな形で、よく見られる状況となっているのでしょうか。広報の媒体なんかではQRコードを目にしますが、いかがでしょうか。

**事務局**

最近では広報とか申し込み用紙、ホームページとかにQRコードを載せています。例えば今回のオープンフォレストもQRコードを張りつけて作成していますが、シティプロモーション担当室の方からは、動画を使っただけのPRはむずかしいのではないかと話を聞いております。

**会長**

まず、役所の中でどういうプロモーションのチャンネルがあるかを、お話いただいたと思うんですが。

一つは、シティプロモーション担当室でやっている晴耕雨読、15秒動画は広報広聴課、みどりと花の課が運営しているホームページやリンクの3種類がある。

**事務局**

他にも前回の委員会でご紹介した子ども政策課の公式ラインは、依頼すれば記事とかを流してもらえます。

**会長**

チャンネルの見える化をした方がいいと思います。どういう媒体のチャンネルがあって、どこに依頼すればいいか、制約はあるのか。

**事務局**

松戸市の電子モニターを使用する場合には15秒の制約があるが、それを使わなければ特にはないと思います。ただ、インスタグラムとかの松戸市のアカウントは他の課に依頼したり作ったりしても、あまり面白くないものになる可能性があります。

**委員**

例えば松戸市のホームページに一般の活動団体のホームページ等のリンクを貼ることはできますか。

## 事務局

あまり例がないので確認しておきます。

## 委員

行政で配信していくというのはポリシーもあるが、単純に作業として大変だと思う。他の活動団体なんかの「やっているところ」へのリンクとした方が広がりがあるかもしれない。里やまでもいくつか発信しているし、子どもっとまつどでも発信している。そういったところへのネットワークとした方がいいかもしれない。

## 委員

シティプロモーション担当室を見ると、「魅力あれこれ」の「自然風景」に入っていくと、みどりに関連したものに当たる流れになっていて、そこで初めてみどりの関連する色んなものが見れるという階層の作りになっていきます。そういう意味ではちょっと奥が深いっていうか、みどりの情報にたどり着くまでの距離があると感じる。一市民としてネットを見たときに、みどりの魅力を感じる、接触するのが少ないかなという感じはします。

## 会長

事務局の方でどういうチャンネルがあって、どういうやり方をすれば役所系メディアに載せられるかを整理してもらいたいと思います。

前回の委員会で話し合っていたところに戻ると、この資料1の1枚目にありますとおり、プロモーションをやっていくという中で、特に動画と映像をうまく使ってSNS中心にやっていきましょう。それに対してまずは載せられるようなコンテンツを作りましょう。というところまでが、前回と話したところになっています。

役所系のメディアはどうやったらアプローチできるかを調べてもらって、それとは別に、この緑推進委員会でそういう状況を踏まえながら考えたことはこの資料1となっていて、その裏側に前回出たいろんな意見・検討事項で、セグメントの設定とかプロモーションの基本的な考え方、コンセプト、概要、内容、政策方針など、実験的にやってみましょうとなっています。今の役所のお話しは一旦置いて、この委員会で少し実験的に動いてみようっていうことに対して、次はご意見をいただきたいと思います。

上の三つは、大体そんな感じでやってみましょう。動画については学生に作ってもらったものを募集するのもいいという中で、検討事項としてセグメントとかプロモーションについて、基本的にどんな考え方していくのか、ここに関して少し意見をいただきたい。

## 委員

セグメントっていうとちょっと難しいかもしれませんが、要は想定するマーケットです。

それが例えば女性であったとしても、大学生だとか、既婚者だとか、子供がいる人だとか、多分いろんなセグメントがあります。その中でどこをターゲットとするか、まずはセグメント設定しないとターゲティングできないので考えた方がいいと思います。

会長

単純に言うと、どの辺をねらうのかという話しですかね。

委員

そうです。

さっきの動画は難しいというのは作業が難しいし面倒くさいということもあるかと思います。若い世代に向けるのであれば、動画の作りも内容もそこに合ったものにしないと受け入れてもらえない。

資料1に書いてある通りの進め方でいいと思います。トライアル的なことをやりながら、それと並行して、みどりの基本計画の中でシティプロモーションするという施策を位置付けたわけなので、プロモーション戦略を作ってしまう。目的設定をしてターゲティングして、戦略を立てて、具体的にどんなコンテンツがあるのか、どんなコンテンツを作っていくのか。並行して考えていけばいいと思います。いわゆるプロモーション戦略の典型的なパターンでいいと思うので、そういうのを作らないと、今みたいな議論になってしまう。

今あるチャンネルを使うにしても、どういう使い方するのか、どういうセグメントに合わせて使うのか、1回整理してあげないと場当たりのことになってしまって「ここがあるからここに載せよう」とやっていくと、そういうのが乱立してしまって、結果的に誰にもリーチしていない無意味な結果となってしまいます。

そのようにならないために一度整理した方がいいと思います。

会長

プロモーション戦略の中で、決定しておいた方がいい部分はどのようなものになるのでしょうか。資料の中で検討事項と書いてあるのがこれまでの議論ですが、追加した方がいいものはありますか。

委員

何をツールとして使っていくか、これは対象やコンテンツによって変わってくると思います。

相手に参加を促すような、関わり方を促すような双方向のコミュニケーションの視点も必要だと思います。例えば、ちいき新聞では読者を記者にして記事を書いてもらうことをしている。これによって新聞と読者の間に参加者というものが生まれるようにしている。プロモーションの動画を作るのも外の人に作ってもらって、発信にあたって必要があればこちらで箱を用意したり、動画に共通のロゴやマークを入れてみたりしても共通性が生まれると思います。

対象によってペーパーがいい、チラシがいい、動画がいい、となってもそれぞれに共通性を持たせる。そういうことも検討事項になると思います。

委員

大きな考え、目的といたしますか、テーマ決めることが大事だと思います。

今までの話しから、プロモーション戦略テーマは何か考えると、松戸市民のみどりのライフスタ

イルの発信となる。他にも例えば、先ほどの話しのコミュニケーションも大きなテーマだと思えます。そのテーマを持った上で最初にターゲットを決めないといけないと思えます。

例えばZ世代と高齢者みたいな感じで、とりあえず3つぐらい重点ターゲットを決めて、その中でどのチャンネルを使うのか、どういうコンテンツにするのか。そこを議論しないと進まないと思うので、枠だけはまず決めてあったほうがいいと思えます。

#### 会長

どこを中心にするかというところではZ世代、高齢者、という例を出してくださいました。みどりの関係でいうと子育て世代の親子を、これまで頑張ろうというのが、緑推進委員会やみどり関係の活動に見られるかと思えます。オープンフォレストも親子を考えていますし、新しい試みの「ぱらっと子どもの森」、「あそびの森」も子供向け、親子向けに力を入れてやってるので、子育て世代は大きなターゲットになるかと思えます。

これは複数設定しても良いものですので、今出ているものとしては、Z世代、高齢者、子育て世代となります。これが松戸市のシティプロモーション担当室では東京に住んでいる人をセッティングをしている。

#### 委員

双方向のコミュニケーションを展開させるのであれば、今回のターゲットは松戸市民とした方がいいと思えます。

#### 委員

初めて参加しますので、理解が追いついていかないのですが、資料1の決定事項にあります全体の方向性の上にあるものは、どんなものになるのでしょうか。

例えば緑の条例の目的にあるような健康かつ安全で快適な市民生活に寄与するとか、そういった特定のものになるのでしょうか。

#### 事務局

資料1の1ページ目をめくっていただくと、提言の課題とあります。

松戸市みどりの基本計画が令和4年度に公表されまして、その副題として「みどりと暮らす。松戸に暮らす。豊かに暮らす。」としています。これは松戸に住んでいる方に、みどりと生活というものが密着していることに気づいてもらって、みどりがあることによって生活が豊かになるということを知っていただく。それをもっと効率的に色々なところと結びつけて、豊かに暮らしましょうというコンセプトです。この基本計画の中には、みどりに関する施策が書いてありますが、市民の方には浸透してないので、映像を見たりとか一緒に森の中を歩いたりというプロモーションを通じて「これがみどりの基本計画のことなんだな」ということを広めていくっていうことを前提としております。

#### 事務局

こちらの基本計画の109ページから124ページあたりが、今ここでやっている議論の目指している



ものになります。

**委員**

ありがとうございました。そうしますとセグメントというのは、市民の中の特定の分野の方々となりますか。

**事務局**

委員会の話の流れですと、プロモーションを今後やっていくにあたって、まず世代とかのターゲットを絞らないと、アプローチの方法が変わってくると思うので、まずは的を絞っていくという議論になっていました。

**会長**

松戸市みどりの基本計画の計画書は「市民が全部読むのは大変だ」というところからスタートしています。

このみどりの基本計画に書いてある大切にしたいというようなことを、どうやって伝えるか、それは冊子を見てくださいではなくて、何か体験したりとか、そういう情報を見てそこに行って実感してみると、そういうことを感じ取ることができるというのが大事だと考えています。

これは行政の計画なので漏れなくいろんな施策が書いてありますが、それが市民目線で見たとときに、どういうことを言ってるのか理解してもらえない。「みどりと暮らす豊かさ」というのはみどりの市民憲章で一番上に来ている。そこを実感してもらって「やっぱりみどりと暮らすことは大切だよ」とか、「やっぱ守っていかなきゃいけない」「うまくつき合わなきゃ」と、そういったきっかけになりたいと思っています。

**委員**

ターゲットを絞るというお話が出ていますけれども、松戸市の人口構成で例えば子育て世帯の人口の数とか高齢者の数とか分布はどうなっていますか。

単純に数が多いところをターゲットにしたいのか、理想をターゲットにしたいのか、そのあたり考えるにあたってデータはあるでしょうか。

**会長**

ターゲットにする理由は多いからというより、そこにアクセスすればそれが広がっていきやすいところを狙うとか、その10年後みたいなことを考えたときに、より良くなっていくことを狙うので人口比が高いからそこを選ぶわけではないかと思います。

**委員**

参考としてデータを見た上で、どういうふうを考えるかを判断したいです。

**委員**

今の議論で、もちろん人口構成の多い年齢層もターゲットにすることは必要だと思いますが、年

年齢層として設定をするならば幅広く設定したいと考えます。私は歴史に興味があって、歴史的な視点からみどりを捉えていくこともあると思いますが、そういったことに興味がある世代となると年齢的には上の世代となる気がします。ですので、幅広い世代をターゲットにしたプロモーションがいいと考えます。

#### 会長

今のお話でいうと、Z世代、高齢者、子育て世代、こういった年齢人口をベースにしたものとは別の考え方で、みどりと繋がりのある歴史に興味を持っている人をターゲットにしたいという発想です。そこに興味のある人は上の世代が多いかもしれませんが、若い人にもいるので、世代ではなくテーマでターゲットを絞る考え方になると思います。

#### 委員

例えば、緑のネットワーク・まつどという私が関わっている団体があります。こちらではみどりを見て歩く「松戸のみどり再発見ツアー」というものをしていて、参加者はほとんど高齢者の方ですが、その方々の興味は歴史の話、それから木や花の名前を知りたいという知識欲が高い。一方でオープンフォレストの話がありましたけれども、それですと参加者は子供たちを森で遊ばせようと考えてくる方なので、森の歴史とかではなく、どうやって遊べるか等に興味がある。というのは1例として挙げられるかと思います。

#### 委員

ターゲットゾーンの議論をする時に一番わかりやすいのは年代で、例えばZ世代や高齢者というのがわかりやすいんですけど。

さっき木下委員の発言にあったように違う側面もあるんですね。これから時間かけて考える戦略の中でのターゲットとなると、例えば学生たちが商品開発をやるといったときに、いわゆるその年齢層だけではなくてペルソナを設定してパッケージデザインをします。そのペルソナが例えば世田谷に住んでいるITの企業に勤めている40代の女性、家族構成がこうなって、ペットに犬を飼っている、というような設定をするのが典型的なブランディング手法になります。

そんなペルソナをいくつか設けて、それ向けに発信していくというパターンもありえると思いますので、3つぐらいペルソナを設定して順番にやっていくような形で進めれば無理なくやっていけるかと思います。

#### 会長

時間をかけて戦略を作るところと、とりあえず1回トライアルして、それでうまくいかなかったら、それをまた戦略とかやり方にフィードバックするという、二本立てで走っていく形ですかね。

年齢別の人口比較表がスクリーンに出ていますがいかがでしょう。

これを見ると50代がボリュームゾーンとなっているようです。

#### 委員

参考として、里やま活動に関わる人の年齢について、最近若い世代も増えてきている。早い人だ

と子供が小学校に上がったくらいからで、30代半ば過ぎから40代半ばくらいが多い印象です。特に40歳くらいの方が積極的に関わっている気がします。

#### 委員

40歳あたりのところは、よく動きます。藤沢市の市民農園利用者のデータを見ると、70歳以上が多いですが、次の層がその世代でした。子供が低学年だというところでは、地域食堂でも一年生から三年生の子供が25人くらいいましたが、そのお母さんを見るとそれくらいの世代でした。その世代はアクティブで発信力がある。

#### 会長

結構、口コミでコミュニティ形成しているお母さんはいる気がします。

#### 委員

イベントをやっていると、年長さんから三年生ぐらいの子が多く来ます。その子たちが中学生くらいになってイベントに関わってくれたり、そういう継続性が生まれたりします。

#### 会長

次の世代のサポートをしようとしてる人達も、そこら辺の世代が多いですね。

#### 委員

山のところを中心とするのではなく、その下のところをターゲットにするという考えもあると思います。

先日の緑と花のフェスティバルの時に感じたのは、子供の参加が少なかったのと、子供と一緒にいてこなくなった世代の夫婦が私たちのところに多く並んでくれたことでした。その人たちが10年経った時に、50歳よりちょっと上ぐらいになると思います。そこら辺を松戸市がターゲットにするのもいいと思います。

私たちのやっている花づくり体験の講座に、先日参加したお母さんですが、歳としては30代の前半ぐらいで2人目の子供が生まれたばかりの方が、3ヶ月の赤ちゃんを連れて講習会に参加してくれました。若い人の考えも変わってきてるのだと思いますが、私たちが子供に手がかかっているだろうと考えている世代は勉強意欲もあるので、すごくねらい目だと思います。

この講座の参加者は60代後半ぐらいの方が多かったんですけども、今回は6歳ぐらい低い年代の方たちが講座を受けてくれています。乳母車を押して参加する方もいて、この世代でも日常と違うみどりに触れたいという思いを持っているのだと感じています。

#### 会長

ありがとうございます。時間も無くなってきたので、まとめていこうかと思います。1つ目として、幅広い層の市民を対象に、プロモーション戦略を作成していく。2つ目として、実際に試しにトライアルでやってみる。この2本立てでいきましょうというですね。

それから、プロモーション戦略、トライアル、どちらにしても、どこのセグメントをねらうか、

ターゲットにするか明確にしましょう。そのために、ペルソナという考え方をに入れて具体的なターゲット像を絞っていきましょう。なので、皆さんにはペルソナを考えて提案をいただきましょうか。

#### 委員

項目としては、男か女か、何歳ぐらいか、結婚しているのか、子供は何人か、普段の暮らしは、日曜日はどんなことをしているか、それくらいのところを具体的に設定してほしいです。

#### 委員

みどりの基本計画を改定するときは、松戸に住んでないけれど、働きに来ていますとか、将来松戸に住みたいかもしれないという人にも向けて引き込もうと考えましたが、今回は対象外と考えていいでしょうか。

#### 委員

世間的に松戸は子育てしやすいまちになっていて、引き込む力はそっちが強いと思いますので、みどりはそこにくっついていくイメージだと思います。

#### 会長

事務局で記入用のシートを作ってもらいますので、よろしくお願いします。

それとは別に、役所の中で使ってるメディアを少し見える化していただいて、アクセスできるところはアクセスしてみましょう。

#### 委員

今日の議論の中にありました、シティプロモーションの基本的な考え方とコンセプトについて、簡単な案のようなものがあると議論が進みやすいと思います。

#### 会長

こちらについても事務局で簡単に作ってもらいたいと思います。よろしくお願いします。

### 3) サロン部会からの報告について

#### 委員

資料3になります。

みどりの基本計画の中にも掲載されていますけれども、この委員会の部会で以前に、みどりの市民フォーラムというものをやりました。みどりの活動に関わる市民団体をみんな集めて、その活動を紹介し合うミーティングのようなものを第1回として試験的にやりました。

次の段階として、今度はみどり関係ではない他分野の方々のみどりに関わる機会を作り出すような市民フォーラムを実施できないか、部会で検討しています。対象がみどり関連だと繋がりがあるので、呼びかけをしやすいですけれども、それ以外となると、みどりに対してどんな認識や共

感、考え方を持っているのか、なかなか見えないところがあるので、人の集まりやすいところで公開にしてやったほうがいいかなと考えています。

前は21世紀の森と広場で日曜日にやろうかと考えていましたが、秋に「遊びの森」という囲いやまの森で開催しているイベントがありまして、結構集客がいいので、これに相乗りして開催するといいいのではないかなと思っています。

みどりの市民フォーラムをやるにあたって、この緑推進委員会、サロン部会にはあまり集客能力がないので、どこかとジョイントした方が呼び込みやすいと考えています。

ちょうど柳井会長のところの研究室が、囲いやまの森と、その森の向かいにある金ヶ作育苗圃というところを活性化させる研究をしていますので、そこもジョイントしてやれたらいいな、というのが先日のサロン部会での話しでした。

今年についても日程までは決まってないですが、11月ごろに囲いやまの森で「遊びの森」をやるので、これから実行委員会ができて動き始めるところなんですけれども、それに部会も乗っかっていこうかというところなんです。

それから、金ヶ作育苗圃でやる場合には奥にハーブガーデンがあるので、そのハーブガーデンの花が咲いて見栄えの良い春にやるのもいいんじゃないかという案も出ています。

みどりに関わる活動がすごく盛んなのに、あまり知られていない。知名度がものすごく低いので、それは町で活動している人たちが、人と森をつなぐ、みどりにつなげていこうっていうことを考えているんですね。その1つの機会づくりというのが、このみどりの市民フォーラムとなります。松戸市に里やま活動をしている団体が20くらいあります。その中心に里やま応援団というものが18団体あってそれぞれ活動の森を持っているんですが、その中の有志たちが暮らしの森会議というものを4月に作りました。

暮らしの森会議は、里やま応援団の人たち、遊びの森に関わっている団体、緑のネットワークまつど、子育て支援をやっている団体、の有志で集まって結成しました。私たちサロン部会の一つのキーワードが「みどりと街と人をつなぐ」なんですけど、話を聞いてみるとみんな同じようなことを考えてるんです。

みどりと街と人をつなぐってどういうことかという、みどりをライフスタイルの中に取り込んでいくということ、積極的に機会として提供していくことになると思います。

そういう同じことを考えてる団体が集まって新しい集合体が4月にできまして、実際に何ができるか考えて「それじゃ、ぶらっと子供たちが親子で立ち寄れるような、森の総会議を作ろう。」となりまして6月11日に開催してみることになりました。

そうすると、サロン部会が今やっていこうというしていることの一部は、そこで実現されていくわけですので、そこから今度は僕らがどういう情報発信をするかを考えていきたい。

## 会長

はい、ありがとうございました。

まずは、サロン部会でいろいろ考えていただいて、フォーラムをやりますということです。

それから、5月がハーブとか花とかの時期っていうのがありますが、当面は11月に開催される遊びの森に合わせて開催する。この遊びの森が何かというと、子育て団体の人たちと一緒に囲いやまの森とか里やま応援団の人たちが、森で子供たちに遊びの場を提供する1日のイベントになります。

す。子育ての人たちは子育ての人たちのネットワークがあるので、いろんなとこに声かけるし、子供の遊び方も知っています。一方で里やまの人たちは、森の管理とか森の遊び方とか冒険遊びとかできます。そういったところで一緒になってやっているものになります。

このイベントは参加者が結構多くて去年の実績で100を超えました。

それが11月に開催されるってということと、囲いやまの森の道一本挟んで反対側に金ヶ作育苗圃があります。金ヶ作育苗圃では、私もそうですし、木下委員もメンバーの1人となって、そこを利用するとか利用促進とか普及のポイントであったり、市民活動の拠点にしたいということで研究をやっています。

あと「ぷらっと子どもの森」というイベントも囲いやまの森で第1回目をやろうということになっています。

ある種、あそこに人的な資源と空間と、これからやっていこうという機運みたいなものがあるので、そこを開催場所にしてはどうかということです。

いかがでしょうか。

今日はその方向で引き続き検討していただいてよろしいですかっていうことだと思います。或いは何かご提案とかあればお願いします。

#### 事務局

新しい委員の皆さんは、なかなか場所のイメージとか分からないと思いますので、近いうちに今お話のあった囲いやまの森と金ヶ作育苗圃をご案内する時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いします。

#### 会長

新しい委員さんはどうでしょう。行かれたこと、名前聞いたことありますか。

#### 委員

囲いやまの森は先日、オープンフォレストで行きました。中は良く整理されていて子供たちが楽しめるようにしてありました。

#### 委員

木登りの遊具が素敵な作りでした。

#### 会長

あとうちの研究室で、増木委員が担当して、緑と花のフェスティバルで金ヶ作育苗圃の認知度をアンケートして、100ぐらい回答が集まったようです。

#### 委員

半分以上の方が「知らない」と回答しています。「行ったことがない」の回答を含めると7割くらいになりました。「行ったことがある」が20%くらいでした。

## 会長

「行ったことがある」が20%くらいで、「名前は聞いたことがある」っていう人が多少いる、あとみんな知らないという結果です。緑と花のフェスティバルに行ってるから、緑と花に興味がある人で、そのぐらいの感じと考えると、一般市民よりはみどりに興味があるけど、そのぐらいしか知られてないよねっていうのが現状です。

## 委員

暮らしの森会議というのは、どういう会議なんですか。

## 会長

元々オープンフォレストの実行委員会というのがあって、オープンフォレストを実行するための委員会だったんですね。

オープンフォレストを実行するための委員会と並行して、オープンフォレストも含めて、これから森をどういうふうに守ったり、地域の人に知ってもらったりしようかと両方考えていました。ですが、オープンフォレストの方は、ルーティン化してるところもあるので、それはそれで実行委員会として検討してもらっています。それとは別に、将来森をどういうふうに使っていかうかっていうのを考えたり、実験的に何かやるっていうことに特化したグループができないかというのが形になったものとなります。

森の人だけでやっても広がっていかないの、例えばリサイクルや資源の問題だったり、いろんな切り口が見える。その中で、当面はみどりと子育てみたいなところをやろうかと考えています。

それでぷらっと子どもの森をやってみようと考えまして、3月にやったシンポジウムの発想をポイントにしています。

里やまで管理をしてる人って子供たちが来ると、何かプログラムやんないといけない、喜ばせるためにプログラムやんなきゃいけないみたいなのが結構あるんですけど、そうじゃなくて、こちらからのプログラムで学んでもらうみたいない感じじゃなくて、自由に遊んでもらって安全だけ見守るみたいなコンセプトにできないかっていうことを考えています。

## 委員

今回のぷらっと子どもの森では、おじいさんおばあさん達が森の中で遊んでる。そこに来て、何かやりたいと思ったら、じゃあ一緒にやるっていうぐらいのものを考えています。

## 会長

準備して、何を学ばせてみたいないことはやらないで、子供たちの触れ合いに任せる。そっちの方が面白いんじゃないかという試行です。

時間なくなってきちゃったので、まとめさせていただきます。

みどりの市民フォーラムを11月に、金ヶ作育苗圃と囲いやまの森と一緒にやるということです。

## 委員

ハーブボランティアと花壇ネットワークに、「もしよろしければ」ということで相談をしてみようと思います。

#### 会長

それから私と木下委員の研究の方もお手伝いを考えます。  
あと、可能性としては再発見ツアーみたいなのところまでやれるかどうかですがいかがでしょう。

#### 委員

今出てる案はマップを作成してしまおうかとなっています。

#### 会長

ではサロン部会の方では、引き続き今度は実行に向けていろいろ調整とかアイデア出てくるかと思いますが、よろしくお願ひします。新しく委員になられた方でサロン部会に興味のある方は是非ご参加ください。

### 4) 緑と花のフェスティバル2023についての報告

#### 会長

事務局よりお願ひします。

#### 事務局

緑と花のフェスティバル2023が開催されました。  
日時は4月29日午前9時30分から午後3時まで。場所は21世紀の森と広場のつどいの広場で開催されました。  
天気は幸いなことに終日晴れとなりました。  
全体的なご説明については、田辺事務局長にお願ひしたいと思います。

#### みどりと花の基金

緑と花のフェスティバル2023とみどりと花の基金の簡単な紹介をさせていただきます。  
お手元の冊子をご覧いただきながら聞いていただければと思います。  
1ページ目を開けますと、見開きの左側のところに昨年度の様子を写真で載せています、平成元年から松戸市とみどりと花の基金との共催で行っています。  
東日本大震災と新型コロナの関係で3回ほど中止になっていますので、市制80周年となります今回は32回目の開催となっています。  
当日の公園の入園者数11,702名、当日の天気は良かったのですが風が強かったのが心配したところですが、大きな怪我等の報告は入っていません。  
参加団体数は概ね30団体と近年は横ばいですが、団体も高齢化により、特にステージに多少入れ替わりがありました。  
次にみどりと花の基金の紹介をさせていただきます。3、4ページに事業を紹介していますが、関係するところでは3ページ目の市民活動への支援により里やま活動のお手伝ひをしています。最近



ですとチップターの導入をしましたので、溜まってしまった剪定枝の処理に活用いただいているところですよ。

また、各種イベントへの参加、ハーブ園や講習会の実施、8月にはあさがお展、金ヶ作育苗圃の管理運営では松戸市からの受託で約8万株の花苗を種から生産してボランティア団体へ配布しています。東松戸ゆいの花公園の運営管理についても松戸市から受託しております。

それから6ページ目には松戸みどりと花のコンクールを紹介しています。こちらは9月に募集するもので、団体、学校・保育園、個人、とカテゴリー別に審査しています。景品も良くなっておりますので、お庭のある方は是非参加してください。

10ページ目には支援している団体を載せています。次のページからの日記で活動内容を紹介しています。

15、16ページ目は賛助会員の紹介となっています。会員のみなさまにお手伝いいただいて、先ほどご紹介いたしました事業を展開しているところですので、興味のある方は是非こちらもよろしくをお願いします。

#### 会長

当日、緑と花のフェスティバルに参加された方からの感想などいかがでしょう。

#### 委員

初めて参加させていただきましたが、みどりに興味のある方が多くて勉強になりました。ありがとうございました。

#### 会長

千葉大も私の研究室と、木下委員の研究室が参加しましたが、木下委員はいかがでしたか。

#### 委員

私も初めて参加させていただきました。

私どもの研究室は雨樋プランターとして、雨樋から水を引っ張ってきて、その雨水を再利用してプランターに使うというプランターの試作品の展示と、雨庭の普及啓発に向けた展示をさせていただきました。

思っていたより市民の皆さんが真剣に聞いてくださったので、やってよかったなと思っています。あと、先ほどから話しの出ている金ヶ作育苗圃にも、そういった雨庭の実験区を兼ねた見本園的なものを将来的につくるといいなということで柳井会長と共同研究を進めています。

#### 委員

オープンフォレストには私も参加させていただきました。

いろいろな木を出して、みんなに触ってもらったという面白い企画だったと思いますが、「ここでは、何をしています」というのを興味持ってもらえるような呼び込み文句として表現するのがむずかしかったと感じました。例えばスタンプラリーなら誰でも「こんなことをやっているんだ」とイメージできるとは思いますが、今回ブースでしていたことをイメージしてもらえる表現が

思い浮かびませんでした。何をしているのか、何が面白いのか、うまく言えなかったなと思いました。

催しで遊んでもらうことは大切なんですけども、オープンフォレストにいかに足を運んでもらうか、周知に繋げることも必要だと思います。

遊んでくれた人はみどりに関心を持っているので、チラシを渡すだけではなく「森の地主さんは残したいんだけど、管理しきれないので残せない、それをボランティアで近隣から苦情が出ないように管理しています。そんな貴重な森が公開されますので足を運んでください。」と説明を加えるようにしていました。

#### 事務局

補足ですが、平岡委員から鳥のポストカードとクリアファイルを提供いただきまして、参加者にはとても好評でした。ありがとうございました。

#### 委員

ウッドチップ等の環境への効果や実際の暮らしに取り込む際の手法の提案、アンケートを行いました。みどりと花の基金のチップー導入もありましたので、今後も木質資源の活用に向けて研究したいと思います。

#### 会長

本日の議題は以上となります。最後に連絡事項がありましたらお願いします。

#### 公園緑地課

イベントの紹介をさせていただきます。5月28日の日曜日に東松戸にありますゆいの花公園という公園で「結いの花フェスタ」を行います。

令和元年まで開催していましたが、新型コロナの関係で開催を見送っていました。今年度は4年ぶりに開催をさせていただきます。開催するプログラムはご覧の通りとなっています。東松戸ゆいの花公園利用促進協議会と公園緑地課の共催という形をとっております。

この公園のボランティア団体であります結いの会やみどりと花の基金にご協力いただきながら開催してまいります。是非お越しください。

#### 事務局

みどりと花の課よりオープンフォレストの参加者の速報値をご報告させていただきます。

5月13日から5月23日にかけて、第11回オープンフォレスト in松戸が開催されました。

今回は公開される森が1つ増えて19箇所の公開となりました。主に土日の開催で不安定な天気となってしまうましたが、1,627名の来場がありました。

#### 事務局

連絡事項は以上になります。

次回開催は7月中旬から下旬を予定しております。委員の皆様におかれましては、大変忙しいこと

は承知しておりますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。  
詳細につきましては、日程が決まり次第、改めてご連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。

会長

これで本日の委員会を終了します。